

わがかわ報

発行所
香川自治会広報委員会
印刷所 (有) スエカネ印刷

阪神大震災に学ぶ

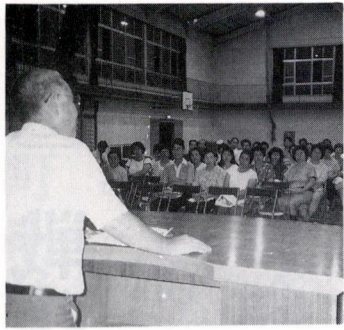
防災研修会を開催

8月3日(木)、午後7時から10時まで、香川小学校の体育館で、「香川防災研修会」が開催された。「阪神大震災に学ぶ」という題で、茅ヶ崎市防災対策課長の高村定芳氏が講演。

① 東海地震(駿河湾)プレート型
関東地方には四つの断層がある。範囲は広く茅ヶ崎まで指定されている。震度6では建物の30%は壊れ、地盤の悪い所は震度6、それ以外は5。相模川、小出川近くは震度6の強化指定になっている。

② 県西部地震(小田原附近)
阪神では幅2km、長さ30kmで起きており、直下型の被害が心配される。70年から74年位の周期で起きている。

③ 東京・川崎方面
真下に起る。震度6の場合、30km離れると1度減るので、茅ヶ崎は震度5位になる。ブロック塀、



防災研修会

墓、タンスは倒れる。ガラスの破損は、家の中の被害を大にする。

④ 房総沖地震

津波の問題はない。自分の家の周りを確認。火災は1時間に100mだから、火を見ながら逃げればよく、すぐに避難する必要はない。消火栓のサイズは全国同一にする必要がある。今回はせっかくなので火にきても、サイズがあわなくて使えなかった。

身障者やけが人の救出の班を作っておくとよい。30世帯が1グループで組織を作り、それが集まって防災組織になるようにする。

大災害の時には、消防や警察、行政はあてにならない。警察の来るまで自分たちで対応しておく。

自分の食糧は自分で蓄え、食糧費を道路や下水道の改修費にまわした方がよい。

市の倉庫が火事になったらダメだから、カプラーメン、水、ポリタンクをいっぱいしておく。

小学校のあき教室を備蓄倉庫に使ってほしいと教育委員会に話している。野球場にも備蓄倉庫を作る。飲料水も濾化器40台を使って市民のまは飲めるように準備してある。情報も100か所に防災無線を設置、外で放送が聞けるようにしてある。

被災地に派遣された市職員の方の幻燈説明により、被災の現状を知ることができた。熱心なお話に予定時間をオーバーし、10時すぎに終了した。

市防災訓練を実施

茅ヶ崎市の総合防災訓練が、9月1日午後1時から東海岸小学校で行われた。木造トタン屋根の小屋の屋根を電気カッターやドリルであけ、人命救助を行ったり、消火器のボックスを持ってきて実演したり、飲料水5ℓが入る折りたたみ式のビニール袋を配布したり、実際に即した訓練が行われた。

阪神大震災の後の訓練だけに、いつもより迫力があり真剣味も加わった。「東海岸地区は、南、北等独立した団体として旗をたてて行動。整理整頓されていてよかったです。香川も見習うべきだ」と参観者は話された。

地震対策は万全か

茅ヶ崎市では「県西部地震」「東海地震」「南関東地震」等の大規模地震の発生が危惧されています。地震対策は万全ですか。

一、室内の安全対策

家具や戸棚は安全ですか。人身事故で多いのは室内での負傷です。停電で暗かったり、慌てたりして思わぬ所でけがをします。家族が待避できる空間を。家具は固定。

(1) 転倒と落下防止を

- ・ 押入れや納戸などの収納専用スペースを設け、室内の整理整頓を。
- ・ 家具を重ねたり、家具の上に不安定なものを置かないように。
- ・ 家具の転倒防止
- ・ 家具や調度品などの安定具合をチェック、事前対策を講じよう。
- ・ タンス、本棚、戸棚は固定を。

様々な種類の金具を組合せて、壁、天井、床の状況に応じ固定を。食器戸棚は、棚板を固定するだけでガラス割れを防げます。壁に固定する場合

- (1) 間柱、胴縁の見つけ方
- 金づちで軽く叩き、音の変化で見ると。
- (2) 間柱と間柱の間に補強用のぬき板を取付けて家具を固定。
- ・ 二段重ねの家具を固定する場合
- ・ 両側側面を補強金具で固定。
- ・ 重い収納物は、なるべく低い戸棚に入れ、積をつける。
- (3) 照明器具などの落下防止
- ・ 天井の下地材に吊り金具を。
- ・ 白熱灯や蛍光灯の点検を。
- ・ ピアノなど重いものは、洋間や丈夫な板床に置くように。
- ・ 石油ストーブなどの火気器具類は、安全な場所で使用を。

二、ブロック塀は安全ですか?
コンクリートブロックで塀を造る時は、必ず鉄筋で正しく補強。

- ・ 高さ 15m(7段)以下
- ・ 厚さ 12cm、軟弱地盤15cm以上
- ・ 基礎 コンクリート造でT型かL型。道路側や軟弱地盤の場合は、基礎構造もがっちりとしたものにしましょう。
- ・ 根入れ深さ 基礎の丈は、45cm以上とし、根入れ深さは最低40cm以上としましょう。
- ・ 控え壁 塀の長さ34m(ブロック8個分)以内ごとに40cm以上突出した控え壁を設ける。この控え壁を鉄筋コンクリート造にして塀の部分にこませればより強固になります。
- ・ 空洞部 鉄筋の入ったブロックの空洞部には、コンクリートで十分に詰めます。
- ・ 地盤 砕石などを入れ、充分突き固めましょう。
- ・ 建物との距離 最低50cm離す。
- ・ 塀の形 透かしのある壁は危険。

八月の広島

横山 恵子

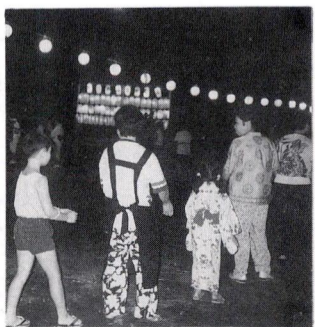


原爆の子の像

フェンスや格子などとの混用は安全性が下がるので避けよう。(茅ヶ崎市都市計画部 建築指導課資料より)

広島は川が多く道幅が広い。市電が安い料金で人々を運んでいた。銀行街は高層ビルが立ち並び、大都市の様相を呈している。公共施設、特に総合体育館は広い敷地内にゆったりとした建物で驚きました。又瀬戸内の海は波も風で、養殖カキの筏が静かに浮かび、遠くの島々が霞んで見えた。戦争当時南方からの帰還兵は似島に寄り検査を受けて、本土に上陸した。平和公園に足を踏み込めば、原爆投下された「あのヒロシマ」に来たんだと身の引き締まる思いがする。慰霊碑や記念像、記念碑が点在し、慰霊碑には、折り鶴が山とお供えしてある。同じ原爆犠牲者なのに、韓国人の慰霊碑は公園の外に位置し、人種差別か、最近公園内に移す運動があるそうです。原爆ドームは、元広島産業奨励館、原爆造りのモダンな建物、一瞬にしてその姿を変えてしまった。来館者で一杯の資料館は被爆の実相を集約して納めてあり、重大な出来事を黙々と訴え続けて来たことを感じさせる。広島平和都市記念碑(原爆死没者の名簿が納められている)前の広場には、整然と椅子が並べられ、八月六日慰霊祭の準備が整えられていた。又外国

にぎやかだった 盆踊り大会



みんなで楽しく踊る

今年も8月12(土)・13(日)日の二日間、にぎやかに盆踊り大会が行われた。

去年の反省から踊りは誰でも参加できるように、踊りなれたものをくり返したりすることとなり、炭坑節、相馬盆唄、東京音頭、ふるさと音頭、好きになった人、心は360度、の六曲が踊られた。新曲やダンスやテンポの早いものは、どうして参加が少なく、踊りの輪が小さくなり、全体の和が保てないので一般的な曲にしよったのはよかったです。子供たちも一回見ているのに、すぐに踊りの輪に参加して夏の夜のひとときを楽しんでいた。また模擬店では焼きそば、みそでん、くじ、飲み物など各種が売られ、多勢の子供たちが集まってにぎわった。

特集 戦後50年を迎えるの体験談

◇戦後50年を迎えて、当時をふりかえる時、それぞれの胸には様々の苦難が蘇ってくるのだらう。◇
 ◇戦場で戦火の中を戦いぬいた人、銃後にあって必死で頑張った人たち、飢えと貧乏に耐えて今日の繁◇
 ◇栄を迎えた方々。各町内お一人ずつ、その体験談や思い出を記して頂いて「特集」としました。◇

第一町内会

終戦前後の松林小の思い出

池田 武夫

昭和18年3月31日、茅ヶ崎第三国民学校（現松林小）へ横浜の正国民学校から転任。丁度太平洋戦争末期だった。戦時下で衣食共に切符で購入。先生方も男子は大方戦場へ召集され、女の先生が多かった。私は師範学校卒のため再三召集延期となった。海軍志願で軍艦生活をしていたので召集されれば南方へ行く。撃沈されれば海の藻屑だ。毛髪と爪は妻に預けた。20年8月15日、昭和天皇のご英断により今日があるのだと思う。

7月の市広報の写真で相模湾に終戦直後の米艦船を見て、終戦が一ヶ月遅かったら艦砲射撃で沿岸一帯は沖繩戦と同じだったかもしれない。戦艦一発の破壊力の恐ろしさを経験していたからだ。一方赤羽根山南斜面に横穴を掘り防備していた。近隣部落の働ける男子は掘り出した土運びに動員され、私も父と共に授業は公休で働いた。でも児童は元気だった。小国民の名のもとに高等科一・二年生は工場動員に、また室田、高田、田蔵等の暗渠排水の穴掘りと大人に指揮されながらよく働いた。出征兵士農家へは畑の草取り、麦刈り、取り入れ等、大人に負けずに働いた。陸稲の草取りで女学生が草との見分けがつかず、皆むしってしまった笑い話もある。

松林小の昭和14年の火災で講堂がなく、ようやく戦時下でも骨組ができ、屋根板を葺いても職人が不足で瓦がのらず、結局私が担任した高2の男子が手伝う。瓦を並べるのは本職で、下から長い梯子をかけて手渡しで二、三枚ずつ運びあげ、屋根の端から端まで瓦葺きができた。

重い瓦を手袋もしないで、手ついで怪我もせずによくやったものだ。指先の皮が減って、血の出した生徒の指を、思わず口へ入れて、私は労をねぎらった。今なら考えられないことだ。「やらねばならぬ」の気持であったと、つくづく思う。六年の受持の先生が二階から見ていて、その働く様子を絵にかいてくれた。

空襲が激しくなると、親戚を頼って疎開してくる児童があり、集団疎開は、19年の夏頃だったかと。茅ヶ崎町へは、浦賀国民学校から各寺院に何人ずつかに割り当てられた。玄圃寺と浄心寺へ約40人位だったかと思う。

松林小も空襲がはげしくなるとからは、各部落毎に神社の神楽殿を開放してもらい、香川では私一人で四年以上高2まで受持、国語書取、算術の計算位だったか。警戒警報のサイレンで直ちに家へ帰した。空襲警報で職員は学校へ馳せつけた。高度鋼（株）の爆撃や変電所も同様、黒煙天に沖した光景は、まだ眼にありありと残る。詳細に書きたいが、ほんの一部だけの思い出しか書けない。

今の幸せは戦死された方々、出

普通救命技能保有者が誕生



全員合格！ハイポーズ

8月27日(日)香川自治会館で第一町内会の有志が消防署の職員による応急手当の講義と実技指導を受けた。普通救命技能保有者が誕生しました。救急車が到着するまでの「空白の5.7(全国平均)分間」に適切な処置をすることにより、救命率は格段と高まります。

◎心肺停止後の時間経過と蘇生率
 1分後97%、2分後90%、5分後25%、10分後0%、一分一秒でも早い応急手当が必要となる。

◎救急車の呼び方 119番
 火事か救急なのか質問されます。あわてないで「救急」と答える。住所・誰がどのような状態か言いつつ、(ある程度の情報を伝えることで適切な対応をもらえる。)

◎病院も多少選択可能になって来る。
 ◎外で人を助けるということばかりではなく、自宅で倒れた家族も応急手当が必要になる。人工呼吸・心臓マッサージ・倒れた場所からの移動のさせ方・気道確保の仕方等、見聞より、体験することの大切さを感じました。

※次回はあなたも参加して下さい。

高射砲隊員として勤務

柳川 治郎

平成七年春のこと、「太平洋戦争終結から半世紀」との新聞に、「エッ」と思い呆然と立ちすくんだ。あれから五十年、どんなことがあったのか、目新しく判るのが香川地区の住人が増えたことと自分の老いたことである。家族も縁有って行く者、来る者がきまって、五人で家族を構成している。

さて、戦争のことだが、北支の蘆溝橋事変から太平洋戦争となり、世界中の戦争となり、日本では大國のアメリカと戦火を交えるようになった。兵員が不足に不足を重ねて、戦が出来る身体の男性はほとんどとく戦場に刈り出され、軍隊は平時でも人体にこれ以上身にこたえる労働はない。戦争ともなれば、命を無きものとして、砲弾の前に立ちふさがる。これでは死ぬのは当たり前でしょう。殺して死ぬでも自分のためでもなし、国のためとして悔いを残さない、これが日本軍の教育でした。出征の前日、田畑の作物に「お前達の姿を見るのは今が最後で、これからはおじいさんやおばさんに世話をかけずに、立派な作物になり務めを果たしてくれ」と言い聞かせて別れた。

当時男子は二十才で徴兵検査が義務づけられていた。検査の結果は甲種乙種と決められる。甲種は二年の現役の教育を受ける。乙種は補充兵が必要において教育される。私は乙種で補充兵員が不足の時、召集を受けた。私は二十六才だった。昭和七年秋、土地の皆様へ送られて、埼玉のある小学校に集

合して、関東防衛部隊員として横浜の高射砲隊の兵として任務を遂行の命を受けた。いよいよ兵舎も寝床も決まり床につく。右を見ても左を見ても知らぬ顔ばかり。床に入ると気も落ちついて隣りの人と話をしようになった。いつの間にか寝込んだが、起床ラッパが鳴った。昨夜注意された事を守って、早く表に出て並ぶが、動作を早くせよと朝一番にビンタをもらった。「戦う相手が飛行機だから、そのつもりで動作を早くせよ」と、入隊をそうおこごと。ついていない。一週間すぎたらビンタも減ったが、毎日おこごとはなさない。叱られながらも一年過ぎた。

来る日も来る日も高射砲の発射訓練に日を送る。高射砲は一門につき、十二人の兵がいなくて射てないので、十二人が一人になるように動作しなければ目標に当たらない。電話が入り、米軍が沖繩を占領と同時に大きな飛行場を造っているという。日本軍はといえば、南方で兵も機も足りない。その奪った島もと戻され、日本軍は後へ後へとさがって手も足も出ないとか。いよいよ日本本土の番だ、これから我々部隊の出番だと意気盛ん。

兵一対一なら竹やりと、心ははやるが、世界に誇るボーイングでは手ごわいと思うが、「当って砕けるというのが大和魂」とふんばり、兵隊の心意気は盛ん。九州四国には毎日のようにボーイング艦載機の偵察が来るとの電話あり。大島の監視所よりボーイング数機、富士の方向に飛行と通達。東京横浜の偵察と腕まくりをしたが、静岡方面に向う、ボーイングの偵察は、地上の高射砲の位置、戦力具合の偵察。昭和十八年にはボーイングが京浜地区を数回襲撃し、夜には真赤に燃える。その後、艦載機が低空で

地面と空を分けるような勢いで襲撃して行く。爆弾の音と艦載機の音、高射砲の音が腹の中までしみわたる。生まれて初めてこのような音の体験をした。広島で世界で初めての原子爆弾の災害戦争という事。今後有ってはならない八月十五日、中隊長より重大な放送があるのので営庭に集合の命令が有り。天皇陛下より戦争終結の話あり。天皇陛下の御言葉は「戦争は十五日で終結する」とのことだった。

我々は戦争が終るとはどうしてもピンとこないで、兵同士顔を見合わせて、びくびくしたやら、安心したやら、言葉も出ないで相手を見ていた。

防犯灯のプレート取り付け
 第三町内会では、町内役員全員で防犯灯のプレートの整理を7月30日に実施しました。12月迄取付を実施します。町内には防犯灯が120あります。この中で、市の設置灯は4、開発業者設置灯で三年以上経過したもののが5、三年未満のもののが3、自治会管理のもののが108あります。

管理番号も入り乱れているので組順に番号を揃え、台帳を作って整理します。9月は10日と17日、8時から12時まで作業をします。「防犯灯がなく、暗くてこわい。」とか、「ちかんが出るので、明るくしてほしい。」とかの声もあるのので、皆さまの要望におこたえできるように努力しています。

防犯灯が故障している時には、その組長さんが、プレートの番号をいって、山田電気か松浦電気と連絡して、修理をしてもらって下さい。組長さんは、自分の地域の防犯灯の管理を、よろしくお願

いします。

第三町内会

大連で迎えた終戦

召集令状と北満行き

電田 栄介

8月9日にソ連が日ソ不可侵条約を一方的に破棄してソ連国境を越えて侵攻してきた。戦争といっても余り身近に感じなかったが、ソ連の侵攻によって戦争が身近に感じられるようになった。確か8月12日の日曜日だったと思うが、突然召集令状が来て、その日の午後五時までに大連貨車駅に集合せよとの指示である。従来、理工科系の学生は徴兵延期の恩典があったが、この年2月8日付でこの制度が廃止となり、自分も第二国民兵として登録されたことは承知していたものの、こんなに早く発動されるとは思わなかったし、逆にそれだけ今回のソ連の参戦の深刻さを感じた。

第二町内会

母は水杯の別れのつもりだったのだろうか、どこからか酒を工面してきて父親不在の為、近所の某氏を父の代理に見たてて水杯を交わし、明日の命も知れぬ戦場へ出発した。母は大正広場の停留場まで見送りにきてくれて、姿が見えなくなるまで手を振っていたのが今でもしっかり思い出すことができる。汽車は客車ではなく有蓋貨車に乗せられ一路北満へと進路を北にとって走ったが、一緒に乗り合わせた仲間を見れば、我々のような学生から大学教授までの混成チームで、あまり丈夫そうでもない大学教授を囲んで教子たちがいろいろ教授の身のまわりの世話をしていた。また各貨車には古参兵クラスの責任者が一人ずつ乗って

いて我々の世話をしてくれた。どの駅だったろうか、丁度反対車線に停車中の沢山の避難民を乗せた無蓋車に出会い、お互い励まし合いながらも正直言ってこちららも避難民になって反対車線の貨車に乗って南下したい気分だった。反対車線の避難民から「しっかり頼むよ」の声を背にしながら北上する我々の姿を見て、避難民はどのよう感じたのだろうか。列車は四平街から支線に入って西安で下車、兵営に入ったが驚いたことに軍服は勿論、武器弾薬もなく幸い食料だけは十分有るようだった。その後、終戦直前の関東軍の資料によれば、ソ連侵攻に伴う関東軍の防衛線は、関東州の一部と朝鮮を結ぶ線を境に南側ということになっており、我々の北満派遣は戦線縮小に当たってのカモフラージュだったことが判明し、これで死亡すれば全くの犬死になるところだった。ここにいた関東軍の部隊は沖繩方面に転出して藻抜きの殻になった後の補充用として我々が充当されたのだった。それでも歩兵銃が数丁残っていて歩哨の業務には取りあえず支障のない状態だった。

終戦と南下決行

兵営に入ったとはいえず、銃も無ければ訓練もなく毎日が退屈の日だった。前線からの情報も無く不安の募る毎日が続いて、運命の8月15日を迎えることになる。その日は晴れていた。正午、全員広場に集められ玉音放送をラジオで聞くようにとのこと、どうせ重大な戦局なのだから各員一層奮励努力せよとの陛下のお言葉があるものとはかき思っていたところ、

ポツダム宣言受諾、すなわち日本の無条件降伏ということが判った途端、群衆のあちこちから、すすり泣きが漏れ始め、異様な雰囲気になったが、私はむしろ「これで戦争が終った。これで無用な血を流したり無駄な死をしなくて済んだ」という安堵感が全身に駆け巡ったことを覚えている。後から聞いた話であるが、ソ連軍は重戦車を先頭に、破竹の進軍を続け、交通の要所は既に掌握していたとのことだった。又、後年の記録によれば、当時関東軍はソ連の侵攻に当ってその防衛線を縮小し、我々のいる西安等は防衛線から遙かに外されていたのだった。

さて、終戦と決定したからには一日も早く大連に帰りたいのが人情というもの、間もなく現地解散の命令が出るや否や有蓋貨車を仕立てて一路大連に向けて出発した。しかし、四平街に着いてから我々を乗せた貨車はなかなか出発しようとしな。責任者の話では奉天(現瀋陽)には既にソ連軍の落下傘部隊が進駐しており、ソ連軍の許可がないと駅の通過は出来ないし、ましてや日本軍の兵員輸送の許可などともな申請では許可など減相もないということらしい。結果として暫く様子を見ることになった。折から時候は夏で野宿に近い生活は食料の続く限りさほど苦にはならなかった。終戦が夏だったので寒さと飢えから守られたが、逆に冬だったら、犠牲者の数は確実に増えたと思う。そうこうしているうちにある日、北満から無蓋貨車に戦車や武装した日本軍を乗せた列車が四平街駅のホームに到着したが、我々の心配をあげ笑うようにして、元氣よく南に向

第四町内会

戦争体験と戦後50年を振り返って

岡本 馨

戦争体験と戦後50年を振り返ってというテーマで岡本馨さんにお話を聞きました。

昭和16年1月、中国の各地とシンガポール、ルソン島などを転戦し、終戦は尾道で(船の修理のため入港)迎えたそうです。そして軍隊の厳しさ、重い背のうを背負っての行軍、戦死者の火葬の様子などの話をされ、「苦しい体験をしたが、生きて帰れたのですから、私は幸せですよ」と話しておられました。

終戦を内地で迎えたので9月中旬に香川の実家に復員した時は、両親、兄弟、親戚の方々に「嘗て帰って来た」と大喜びで迎えられ、数年後に分家し結婚され農業に従事されました。農業だけでなく養豚、養蚕、ガソリンスタンド経営など、時流に合わせていろいろな事業をされましたが、軍隊の経験から忍耐力、時流の変わり時の判断力が生かされ、順調に来たそうです。

また、「振り返って見ると当時の多くの人がなんの疑問もなく大和魂の精神で戦地に行き戦って来たのですよ。戦争に負けたので今の平和な生活があるので、勝っていい



苦楽を共に40年

たら私など今、生きていないのではないかと思うし、戦前は茅ヶ崎でも車は少なく、小和田方面で車が通ると珍しそうに見送った時代を思い、今の豊かな生活が出来るとは夢にも思わなかった」と語っておられました。

そして今の自分があるのは周囲の方々のお蔭であり、特に奥様には「自分勝手な事をしていて私を理解をして、黙って許してくれるので感謝している。そして夫婦で年二回位、旅行をして感謝の気持ちを表わしている」としみじみ話されていたのが印象に残りました。

自衛防災隊が発足

既報(前号7月20日発行)の防災組織について、8月27日の組長役員合同会議で、積極的に「自衛防災隊」の発足が、きめられました。防災は一番身近な生命にかかわる大事な問題です。

先ず自分で自分を守る。そして家族、それから余裕が少しでもあれば、隣り近所の助け合い。①家族で防災について話し合いをする。備品(非常持出など)の点検、補充など。②火の元、電気まわりなどの防災。そして初期消火の段取り。

③隣り近所との平素のコミュニケーション。④お年寄・病人・身体のご不自由な方、幼児などの実態。留守の時間が多しなど、地域は、在宅者が守る。

④4ブロックに分割
当面、町内を4班(各班に班長をおねがいする)に分け、各班毎に①消火②救護③避難④情報担当者をおねがいする。勿論、地区の特性(同じ地区は殆どない)により、担当者の人数は不定。恐らく一人のリーダーが、指示を出して協力体制を保つこととなる。

各班(班長)をまとめるのが、自衛防災隊長。そして隊長が上部組織(自治会又は市)と密接な連絡をとり合う。
「話し合ってください。」
「家族で、地域で、防災のことを」
(詳しくは、近くの役員にお問い合わせ下さい。)

人間探訪

縄文の昔を訪ねて

今回はちょっと変わった研究に熱中してられる岩本和代さんを紹介します。

三人の子供さんが小学校に通学して育児が一段落した岩本さんは当時(1980年)茅ヶ崎市委託「文化財を学習する会」に入会されました。堤の貝塚の学習を機に縄文式土器に興味を感じ、会員の手作りによる土器の再現にのめりこんだのが悪戦苦闘の始まりでした。

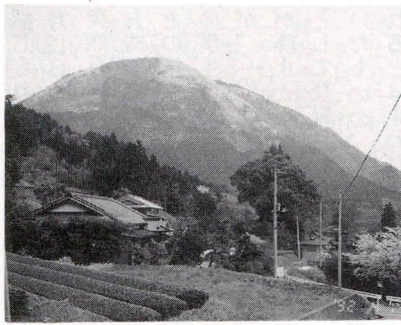
会のねらいは創作の土器ではなく縄文時代(三千年〜六千年前)の土器を忠実に再現することでした。何しろみなが素人の素人の集まりです。考古学関係からまず土器の図を取り寄せました。問題は土器の土作りです。平塚や千葉市に先駆者がいると聞き、訪ねて行って土作りの知識を教えてもらい、粘土も分けてもらいました。最初は失敗の連続でした。粘土に山砂を混ぜて入念にこね、最低一ヶ月寝かせて、それから形作り(成形)をしてまた一ヶ月の自然乾燥をしなければなりません。これらの段階でミスがあると野焼きの時にひびが入ったり、爆ぜて砕けたりしてしまいます。(次号に続く)
(追記)十月中旬に堤浄見寺前で野焼きが予定されています。記者(菱科)も体験入会をしてみようつもりです。

万葉ゆかりの地を訪ねて

茅ヶ崎万葉会会員 岩本和代

日本最古の国民的歌集である「万葉集」には、相模の国の歌が東歌の中に15首、全体では26首ある。東歌とは古代の東国農民が酒盛りや歌垣で共同作業をする時に声をあわせて歌った民謡である。方言や当時の風習が素朴に簡潔率直に詠まれている。

二松学舎大学名誉教授で東海岸にお住まいの岸哲男先生のご指導で、活動しておられる茅ヶ崎万葉会(代表斎藤藤子さん)の方たちが、研究の成果を「相模の万葉」として出版。香川にも会員の方が数名おられるので、実地踏査の記録を順次掲載することにした。足柄の 吾を可鶏山の 穀の木も、 吾をかづさねも 穀割かずとも、 「足柄の吾を可鶏山の楮の木では



矢倉岳

みんなでがんばった ドッチボール大会

前日、どしゃぶりの大雨。奇跡のように晴れ渡った。6月24日土曜日。暑さで真夏のような一日になった。8時30分、米山貴之君(原東)の開会のことばでドッチボール大会は始まった。子供会会



ヒメコウゾ

足柄平野から見る箱根連山、足柄の山々は雄大で、矢倉岳はその中でもむっくりとした山容をしていて、ひと目でわかる。その麓には内川、狩川が流れ、さらに酒匂川へとそそぐ。この美しい田園風景を背景にすれば、この歌の生まられたのもうなづける。 「穀の木」は今の

長代表の大川浩英君(松風台)、有泉香川小学校校長先生の挨拶がつづき、高橋有香さん(間門)、島津悠さん(仲通り)からドッチボールのルール説明が行なわれ、花元幸恵さん(原西)森下祐一郎君(北)のラジオ体操にあわせて、参加者500名で元気に準備運動。8時50分に試合開始、熱戦がはじまった。男子の準決勝の後、試合の始まる三・四年と五・六年の女子は暑さの中、フリーコートで練習開始。でも待ち時間は長かったね。試合で負けたチームも暑さの中で、待ち時間に少し疲れ気味。勝ったチームへの応援の声は、ますます大きくなってきた。試合は順調に進み、予定より早く終わりをとうとうと、大人対優勝チームの試合を行うことに急ぎよ決めた。

矢倉岳附近では、ヒメコウゾは見られるが、カジのキはほとんど見当たらない。ヌルデの方言だとする説もあるが、ヌルデは皮を割いて布に織ったり木綿幣にしたりできないので、第四、五句の意味が違ってくる。 この歌はカ音が重なって調子がよく、東歌の中でも秀作のうちにはいると思う。女たちがなにか農作業をしながら、コウゾの皮をはいでいる男たちに向かって、からかいはやしたてている歌声が、すぐそこに響いてくるようだ。

第四町内会の体育委員に次の方が決まりました。 後藤正子 36歳2組、香川2331-5 後藤さんは前、北子ども会長として活躍、スポーツウーマンです。 次に掲げる優勝チームは、12月9日、市子連本大会に出場する。 一・二年男子(東・殿山)女子(原西)三・四年男子(原東・間門西)女子(原西)五・六年男子(北・間門)女子(仲通り)。 応援よろしく願います。

第二町内会で 市営自転車置き場を清掃

第三町内会の役員が、9月2日8時半から昼頃まで、市営自転車置き場の清掃をしました。 8月20・27日に衛生と環境委員が町内を巡視。「雑草やビン・カンが散乱して汚いので掃除をしたい。」といわれ清掃することになった。集まったカンは収集袋に二つ。ピンは殆どなく雑草はリヤカー3台分あり、浄心寺前の集積

新役員の紹介

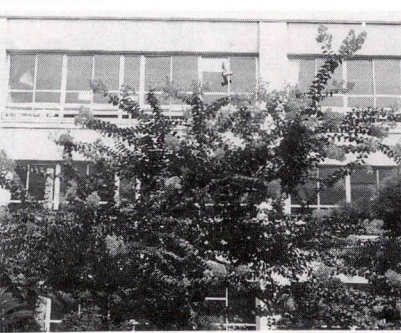
第四町内会の体育委員に次の方が決まりました。 後藤正子 36歳2組、香川2331-5 後藤さんは前、北子ども会長として活躍、スポーツウーマンです。

ゴミの出し方を 考えよう

生月小夜子 変電所からまっすぐ香川駅に入った水道路の所のゴミ集積所です。せまい道なのですが、かなり車の通過も多い所です。 又、最近住宅も増えたにもかかわらず、ゴミの集積所はそこ一ヶ

俳句 茅花会

湯川 章一 物音のびたりと止まる油照り 鈴虫に霧吹いてやる日課なり 田辺美津枝 一ト雨の待たるるうちに秋立ちぬ 履き慣れぬ下駄の緒かたし盆踊り 長島 久江 虫の闇門をとがすに息つめて くるぶしを濡らして戻る猫じやら 藤村 球子 甚平の貧乏ゆすりしてゐたる



樹齢100年余のさるすべり

歴史的な存在

香川小学校の正門を入り、北側校舎の前に、大きなさるすべりの木がある。 この木は、明治27年(一八九四年)11月3日、松林尋常高等小学校香川分教場が、諏訪神社の北、熊沢幸一氏の土地に建てられた頃から植えられ、西南の隅に大きな木として存在。昭和3年に熊沢健之助・熊沢正胤両氏所有の高台(現在金子薬局北側)に分教場が移転新築された時も、更に現香川小学校に移転した時も植えかえられ、当時を知る方たちには、思い出多い懐しい印象深い木となっている。 二度の植えかえで、昔より丈が小さくなったようだが、今年も美しいピンクの花を咲かせ、まことにみごとだ。

平塚司郎選

石田カツ子 猫抱いて手花火の輪に遠くみる 石田カツ子 背も影も縮んでしまひ炎天下 片陰をえらんで歩く昼下り 杏澤 幸子 遠花火鍵屋玉屋の昔より ひとつときの人・人賑はふ夏祭 磯 百合子 外れ球を探す叢屋の虫 釣人の傘の目深や秋の川 選者吟 白粉花や戻りて来たる縄電車

訃報

- 井野奈津紀様 6才 7月12日 第一町内会 25組
- 上原 富蔵様 75才 7月20日 第一町内会 9組
- 與座善太郎様 67才 7月23日 第一町内会 11組
- 大木 角蔵様 80才 7月24日 第三町内会 33-1組
- 奥田 房江様 95才 8月10日 第一町内会 22組
- 青野みどり様 45才 8月15日 第一町内会 21-2組
- 山下 りつ様 75才 8月15日 第三町内会 11-2組
- 村上 一利様 62才 8月16日 第四町内会 47組
- 内田仲次郎様 78才 8月21日 第二町内会 53組
- 星野 芳弘様 59才 8月25日 第一町内会 21-4組
- 堀籠 智子様 35才 8月28日 第三町内会 10-1組
- 佐藤 イネ様 86才 9月1日 第二町内会 34-2組
- 熊澤 ハツ様 93才 9月4日 第三町内会 2-1組